

横須賀市光の丘，YRP 造成地の北武活断層トレンチ調査で発見された 縄文土器とその¹⁴C年代および谷地形の形成

蟹江康光*・野内秀明**

¹⁴C age of the Jomon pottery discovered at the Kitatake Active
Fault-trenching survey in YRP, Hikari-no-oka, Yokosuka City and
the formation of the valley topography

KANIE Yasumitsu* and YANAI Hideaki**

One Early Jomon shard was discovered at the Kitatake Active Fault-trenching survey in YRP (Yokosuka Research Park), Hikari-no-oka, Yokosuka City. It was identified with the form of the Late Kayama. The carbonized substance attached on its surface and associated wood fragment are measured respectively 7340 and 7380 y.B.P. in the ¹⁴C age. At the valley the clayish gravel layer burying the pottery and wood was estimated approximately 10 Ka ago.

はじめに

横須賀リサーチパーク（以下，YRPと略記）は，横須賀市光の丘（旧 長沢）地区で造成されている研究所団地である。ここには北武断層が用地内を横断していることが知られている。

この断層は，右横ずれを伴う活断層であることが指摘され（安藤，1972），太田ほか（1982）はA級の活断層であることを示した。太田ほか（1991）は東部の野比，久里浜病院地区で約8000年間に4回の断層活動を推定した。さらに太田・山下（1992）は断層の位置を1万分の1の精度で図示した。これらの指摘に基

づいて，YRP地区で北武断層長沢地区研究グループが組織され，1994年に旧長沢よろし地区で北武断層の第1（よろし）トレンチ発掘調査が行われた（北武断層長沢地区研究グループ：三浦半島，横須賀市長沢地区における北武断層のトレンチ調査報告，未発表）。

調査中に，よろしトレンチから縄文土器片が見つかった。本報告は，土器の記載とその¹⁴C年代および共産した植物片の¹⁴C年代について報告し，谷地形の形成についても触れる。英文の作成には，海上文夫氏にご協力いただいた。

* 横須賀市自然博物館 Yokosuka City Museum, Yokosuka 238-0016

** 横須賀市教育委員会 Board of Education, Yokosuka City, Yokosuka 238-0004

原稿受付 1997年9月20日 横須賀市博物館業績 第503号

キーワード：縄文土器，三浦半島，¹⁴C年代，完新世，活断層 Key words: Jomon pottery, Miura Peninsula, ¹⁴C age, Holocene, active fault

縄文土器出土層

土器片は、トレンチの西側壁面のW21地点の標高33.4 mから産出した(第1図)。土器を含む地層は、R3h層(北武断層長沢地区研究グループ、未発表)と呼ばれる軟岩礫を主体とする礫層で、マトリックスは粘土である。この礫層は、二つの小河谷が合流点付近の河谷埋積物である。

R3h層の土器と共産木片の ^{14}C 年代

2試料の ^{14}C 年代測定結果(北武断層長沢地区研究グループ、未発表)を第1表に示す。

第1表 YRP出土縄文土器片と共産木片の ^{14}C 年代測定値
(北武断層長沢地区研究グループの資料による)

試料番号	測定コード	材 料	^{14}C 年代(y. B. P.)	測定方法
WS-21	CAMS-20611	土器附着炭化物	7340 $\pm$ 70	加速器法
WS-22	Beta-82278	木片	7380 $\pm$ 130	β -線法

^{14}C 年代測定は、九州環境科学管理協会(CAMS)とBeta Analytic Inc. (Beta)に依頼し、測定結果にはLIBBYの半減期5568年を採用し、 β -線法は $\delta^{13}\text{C}$ の測定値で補正されている。

このように、標高33.4 m出土の土器と木片の ^{14}C 年代は、それぞれ7340 $\pm$ 70と7380 $\pm$ 130 y. B. P.を示し、よく一致している。

縄文土器

本資料は、口縁部から胴部の上半にかけての大形破片である。ほぼ直立する胴部から口縁部付近で外反する器形となる。波状口縁である。

口縁部文様帯は深く明瞭な縦位の貝殻条痕文を地文として、竹管状工具によって文様帯を上下に2分割

し、上位の文様帯には同一工具による横位の連続山形文が、下位の文様帯にはへら状工具による横位の連続山形文が施されている。上下の連続山形文は、左から右へ描かれ、器面を一周すると思われる。口縁部文様帯の施文以前に、文様帯の下端付近に、へら状工具によって横方向に浅い沈線が施され、これは文様施文のために文様帯の範囲を示すと考えられる。口縁部文様帯以下の胴部には、斜方向の浅い貝殻条痕文が施されている(第2, 3図)。

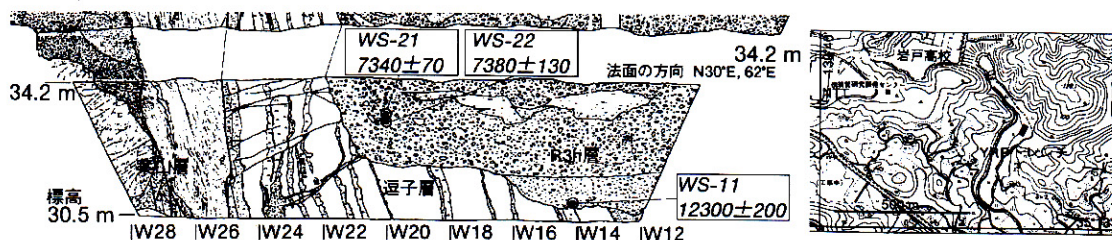
胎土には、繊維とともに石英、チャートなどの細粒砂が含まれている。また、外面に炭化物が付着している。 ^{14}C 年代測定は、この炭化物を使用した。

本資料は、貝殻条痕文が施されていること・胎土に繊維を含むことなどから、縄文時代早期後半・貝殻条痕文土器群の中にその型式が求められるが、口縁部文様帯に見られる連続山形文のモチーフは、吉井第1貝塚下部貝層出土土器に類例があるので、器形に大きな屈曲がないこととあわせて、茅山上層式土器に同定される。

三浦半島における縄文時代早期後半の貝殻条痕文土器に伴った試料による ^{14}C 年代測定値は、次の9点がある(第2表。野内, 1990; パリノサーヴェイ, 1995より)。

吉井第2貝塚下部貝層出土の土器は、野内(1990)では縄文時代前期関山式とされたが、1992年の同貝塚の再発掘調査の結果(野内, 1995)、下部貝層の土器型式年代は茅山上層式の時期のものと確認されたため、ここで訂正する。

これらの試料は貝殻条痕文土器群の鵜ヶ島台式土器に伴う試料が欠ける以外は、野島式・茅山下層式・茅山上層式の各土器型式に伴うものである。年代値は野島北貝塚の試料がかなり古い年代値を示し、一方、吉

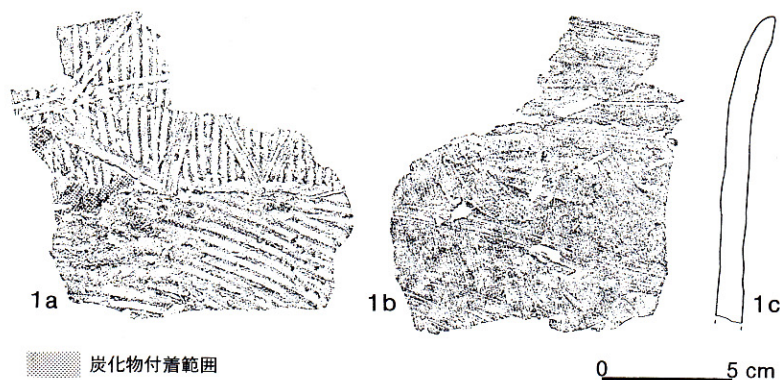


第1図 YRPトレンチ西側壁面における土器試料採取位置(WS-21)と植物片試料採取位置(WS-22)

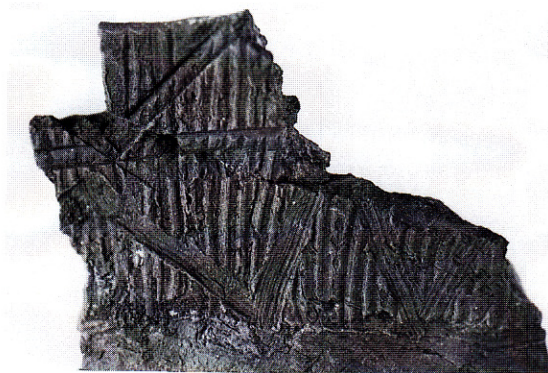
第2表 三浦半島における縄文時代早期後半の貝殻条痕文土器に伴った試料による ^{14}C 年代測定値（野内，1990 を改変）

貝 塚	試 料	^{14}C 年代 (y.B.P.)	試料コード	伴出土器
野島北	カガミガイ	8670 $\pm$ 190	GaK-12548	茅山下層式
野島南	ウチムラサキガイ	8160 $\pm$ 140	GaK-12549	野島式
吉井第1, 下部貝層	ハイガイ	7930 $\pm$ 120	GaK-12552	茅山上層式
茅山	ハマグリ	7560 $\pm$ 140	GaK-12550	茅山下層式
茅山	土器内繊維	7080 $\pm$ 150	N-514	茅山式
岩井口	ハマグリ	7140 $\pm$ 180	GaK-12610	茅山式
吉井第2, 下部貝層	レイシガイ	7220 $\pm$ 140	GaK-12609	茅山上層式
吉井第2, 5a 層	マガキ	7230 $\pm$ 130	GaK-17518	茅山上層式
吉井第2, 5d 層	マガキ	6640 $\pm$ 100	GaK-17519	茅山上層式
吉井第2, 5h 層	マガキ	7580 $\pm$ 100	GaK-17520	茅山上層式

GaK（学習院大学）17518～17520 の測定値は LIBBY の半減期 5570 年により，未補正



第2図 YRP 出土縄文土器片の拓影図。表面 (1a)，裏面 (1b)，断面 (1c)



第3図 YRP 出土縄文土器片の表面

井第2貝塚下部貝層のひとつ (GaK-17519) はやや新しい。これ以外の測定値はおおむね 8000 年代末～7000 年代である。YRP 内で出土した茅山上層式土器については，吉井第1貝塚下部貝層，同第2貝塚下部貝層の同型式土器に伴った試料の測定値があり，それぞれ 7930 $\pm$ 120 y. B. P.，7220 $\pm$ 140 y. B. P. で，測定値にやや開きがある。茅山上層式土器が貝殻条痕文土器群中，最も新しい土器型式であることから， ^{14}C 年代は，7220 $\pm$ 140 y. B. P. の土器型式年代を採用したい。

YRP 活断層調査トレンチの礫層から出土した茅山上層式土器の ^{14}C 年代は，7340 $\pm$ 70 y. B. P. であり，共産した木片の ^{14}C 年代は7380 $\pm$ 130 y. B. P. である。

一方、比較される吉井第2貝塚下部貝層出土の茅山上層式土器試料の ^{14}C 年代は $7220 \pm 140 \text{ y. B. P.}$ である。従ってこれら3つの ^{14}C 年代は、たがいに調和する。

谷地形の形成

活断層調査トレンチの西側壁面における基盤岩を覆うR3h層の基底部付近（北武断層の北側）の標高約30.9 m産木片（地点W14, WS-11）の ^{14}C 年代は $12300 \pm 200 \text{ y. B. P.}$ （KEEA-54）（北武断層長沢地区研究グループ、未発表）である。これより東方の久里浜病院北の谷埋積物基底部付近（断層の北側、標高約12 m）産腐植土壌の ^{14}C 年代は 10820 y. B. P. （GaK-13381）である（太田ほか、1991）。したがって谷地形の埋積は1万年以上前に開始されていたといえる。粘土質礫層であるR3h層は、層厚2.5 mの間で約5000年の時間差があるにもかかわらず、層相が一様に観察されたことから、谷の埋積速度は緩慢であったと推定される。

まとめ

YRP活断層調査トレンチから出土した土器片は縄文時代早期後半、貝殻条痕土器群の中の茅山上層式土器である。土器片に付着していた炭化物の ^{14}C 年代は、 7340 y. B. P. であり、共産した木片の年代は 7380 y. B. P. である。本試料に比較される吉井第2貝塚下部貝層出土の茅山上層式土器の ^{14}C 年代は 7220 y. B. P. である。これら3つの $7380 \sim 7220 \text{ y. B. P.}$ ^{14}C 年代値

は調和的である。谷地形の埋積は1万年以上前に開始された。

引用文献

- 安藤喜美子 1972. 三浦半島、伊豆半島および兵庫県山崎付近における断層の横ずれによる谷の変位量について. 地理評, **45** (10): 716-725.
- 岡本 勇 1963. 横須賀市吉井城山第一貝塚の土器(一). 横須賀市博研報(人文), (6): 23-43.
- 太田陽子・松田時彦・池田安隆・WILLIAMS D. N.・渡部憲司・小池敏夫・見上敬三 1982. 三浦半島の活断層: 1-80, 付図1. 神奈川県.
- 太田陽子・藤森孝俊・鹿島 薫・蟹江康光 1991. 三浦半島北武断層の完新世における活動期と変位様式に関する考察. 横浜国大教育学部理科紀要, 2類, (38): 83-95.
- 太田陽子・山下由紀子 1992. 三浦半島の活断層詳細図の試作. 活断層研究, (10): 9-26.
- パリノサーヴェイ株式会社 1995. 吉井貝塚を中心とした遺跡採取試料の ^{14}C 年代測定. 神奈川県指定史跡整備報告書: 83.
- 野内秀明 1990. 三浦半島における縄文時代の ^{14}C 年代測定値について. 横須賀市博研報(人文), (35): 59-71.
- 野内秀明 1995. 史跡整備事業に伴う確認調査概報. 神奈川県指定史跡整備報告書: 45-69.